

のんびり

08 non-biri
2014 Spring



秋田内陸線



秋田内陸線にのって表紙撮影!

1月11日〜13日に行われた「のんびりツアー」。全国各地から19名が集まり、のんびり編集部とともに2泊3日の旅をしました。

この旅の締めくくりに行われたのが「秋田内陸線にのって表紙撮影をする」。ツアー客のみなさんと、秋田内陸線の鷹巣駅たかのす角館駅かのたてまでの乗車時間約2時間半のなかで「のんびり」8号目の表紙撮影をしようというのです!

プシユーと扉が閉まり、3日間の旅の思い出を詰め込んだ「のんびり列車」が動き出します。

雪の中に飛び込んだ、雪上りきのすけカルタ大会、酒蔵の杜氏を招いて酔いしれた日本酒。毎晩食べたきりたんぼ。作り手の思いに涙した寒天(新婚夫婦がファーストバイト!)。真剣に聞き入ったマタギ語り。温泉宿に突如現れたなまはげ。一緒に写真を撮ったモフモフの秋田犬……。それぞれが、秋田での3日間を表現します。そして、車両の中央には、撮影前夜にそれぞれが手作りした「なまはげ面」のツリーがそびえ立ちます。

秋田県の魅力を全国に伝えようと発信してきた『のんびり』。それを手に取り、実際に秋田に足を運んでくださったみなさんと作った1枚。

どうですか? この表情! 秋田での3日間がどんなものだったかがうかがえます。

そんな、秋田を楽しみ尽くしたみなさんとの撮影の様子は「のんびり公式ウェブサイト」でもご覧いただけます!



のんびりしたいは
みんなのきもち
のんびりできるは
ゆたかなあかし
のんびりまつすぐ
秋田のくらし

秋田にはうまい飯とうまい酒があります。
その豊かさが秋田の実直な
ものづくりを支えてきました。
そして同時に、秋田の人々のなかには
大らかで力強い「のんびり」精神が育まれました。

そんなのんびり秋田は
右肩上がりな経済成長という
ゴールなきゴールに向かい
懸命に走ってきたニッポンにとって
まるでピリを走るランナーのように
映っていたかもしれません。

けれど世の中は変わりました。
順位など気にせずのんびり歩いてきたことが
まさに「ノ・ン・びり」となる時代がやってきました。
日本人の多くは今、
うまい飯が食べられてうまい酒が飲めるという
当たり前の豊かさについて考え直しています。
しかし秋田では昔も今も、ずっと
それが人々の暮らしの真ん中にあります。

ピリが一番だ。上だ下だ。と
相対的な価値にまどわされることなく
自分のまちを誇りに思い、他所のまちも認め合う。
そんなニッポンのあたらしい「ふつう」を
秋田から提案してみようと思います。



Contents

1	のんびりまっすぐ秋田のくらし
4	あきたびじん
6	第1章 のんびりツアー in 内陸線
10	第2章 観光アテンダント
16	ほかにもあります 秋田内陸線スペシャル その1 《角館〜笑内間》
18	第3章 曲づくり
24	第4章 あきたびじんを探して
34	ほかにもあります 秋田内陸線スペシャル その2 《笑内〜鷹巣間》
36	最終章 みどりのなかを
44	詩修 詩人が描く池田修三の言葉④ 森雪之丞／こめんね森には住めないの
45	写真家 浅田政志の撮らずにはいられない!! 第8回／あたりや
50	平沢さんというお米屋さん
57	下戸式秋たんぼう 福田利之 第8回／小正月〜冬の祭典
62	non-biri akita access map



のんびり 編集チーム

秋田メンバー

渡谷和之 田宮慎 船橋陽馬 矢吹史子

県外メンバー

鍵岡龍門 浅田政志 藤本智士

服部和恵 山口はるか

秋田内陸線

観光アテンダント

橋本由子さん 武田千鳥さん 畠本美登里さん

秋田内陸線旅行センター 秋田内陸縦貫鉄道株式会社社長

藤原文雄さん 酒井一郎さん

シンガーソングライター

比立内のおばあちゃん

青谷明日香さん 柴田ハルエさん

今号の「あきたびじん」ぶつ 相関図
秋田で暮らす美しき人々あきたびじん



あきたたびじん

取材文＝藤本智士

Text＝Satoshi Fujimoto

写真＝浅田政志／鍵岡龍門／船橋陽馬

Photo＝Masashi Asada / Ryumon Kagitaka / Yona Funabashi



1年で終わるはずの『のんびり』がみなさんの熱い熱い本当に熱いご声援のおかげで、もう1年継続することとなり、ならば！と、全力で走り抜けた2年目。そんな『のんびり』第2期もいよいよ最終号となります。あまりの全力加減に、なんだか信じ難い気持ちにもなりますが、『のんびり』は秋田県庁のオフィシャルな発行物です。ゆえに、さらに次年度も『のんびり』が発行できるのかどうか？は、まだ神のみぞ知る状態。それゆえ、これが最終号だ！という気持ちで気合い充分に取組んだテーマは「あきたたびじん」です。

みなさんどこかで目にされたことがあるのではないのでしょうか？写真家の木村伊兵衛さんの代表作「秋田おぼこ」に「あきたたびじん」の文字。写真の女性の美しさと、「よ」の小ささに、一見「あきたたびじん」と見えてしまうこの1枚は、敬愛するデザイナーの梅原真さんのデザイン。僕は、この1枚に梅原さんが込めたメッセージの大きさを想像して、心が震えました。

秋田美人という言葉について、私たちは今一度考えてみようと思います。す。「美人＝うつくしき人」は、いわゆる容姿の美しい女性を形容しているだけではないんじゃないでしょうか？例えば……アピールするのは下手だけど実直にもづくりをつづける人。この豊かな気候風土を誇りに、旅人をもてなしてくれる世話好きな人。都会から秋田に戻り、試行錯誤しながらも秋田の未来を真摯に考える若い人。それらこの町で生きる人々の姿はどれも「うつくしい」。それは私たちの実感です。

だからこそ秋田から提案するニッポンのびじょん「あきたたびじん」は、あきたびじょんなくしては語れないと思うのです。秋田で生きる実直な人々の美しき姿を取材編集アウトプットすることは、秋田の未来を県民のみなさんと共有するための最良の方法であり、県外の人たちへ秋田の魅力を伝える何よりの早道であるのだと思います。



前置きが長くてすみません。なにしろこれが最終号になるかもしれないので、もう少しおつきあいください。この『のんびり』を県庁のみなさんに提案したときに、僕たちは以下のようなことを書いたシートを提出しました。わかりにくい部分、少しだけ加筆してここに引用してみます。

それらこの町で生きる人々の姿はどれも「うつくしい」。それは私たちの実感です。ならば、そんな人々をこそ「あきたたびじん」と呼ぶべきではないのかと、私たちはそう感じていきます。

以上のような考え方のもと、僕たちは『のんびり』を作ってきました。すなわちこれまでに発行してきた7号すべてが、いわば「あきたたびじん」特集だったと言えます。その上でなお、あらためて掲げる「あきたたびじん」特集。その舞台として僕たちが選んだのは、秋田内陸線でした。



のんびりツアー

「この3日間でいただいたもの、私たちそれぞれの日に活かしていくと思います。ありがとうございます。また」そんな言葉とともに、参加者全員が僕たちののんびりチームに頭を下げてくれて、涙腺崩壊。ひざからくずれ落ちてしまいそうなほどの感動を覚えた角館駅、観光案内所での一コマ。ここから今回の特集をスタートさせようと思います。

県外の人たちに秋田県の良さを伝え、ぜひ秋田に来てもらいたい。そんな願いのもと本誌を作り続けてきた僕たちは、その集大成として、読者のみなさんに実際に秋田に来てもらうべく「のんびりツアー」というものを企画しました。そこに参加くださった19名のみなさんとともに3日間たっぷり秋田を満喫。ちなみにそのツアーの重要な足となったのが、今回の特集取材の舞台、秋田内陸線でした。

最終日には内陸線の車内で今号の表紙撮影をするなど、濃密な3日間を過ごしたその締めとして、角館駅を出てすぐにある観光案内所で旅の写真をスライド上映。あらためてツアー参加者のみなさんに感謝の気持ちを伝えたその直後に起こったのが冒頭のシーンでした。

まさかの参加者からのサプライズに、僕たちののんびりチームは人生最大級に感動。そしてその翌日からそのまま本特集取材に入った僕たちが、3日後再びこの場所で感動のフィナーレを迎えることになるのは、このときは知る由もありませんでした。



第1章

のんびり

ツアー

in 内陸線



第2章

観光

アテンダント

1月14日(火)

「のんびりツアー」が無事終了し、その安堵感と幸福感にまかせて、ついつい打ち上げて飲み過ぎたこともあり、久しぶりにゆっくり睡眠をとろうと遅めにスタートした朝10時の角館駅。昨日スライド上映をさせてもらった観光案内所にお邪魔して、11時発の列車に乗るべく準備をします。そこへ東京からやって来てくれる予定の青谷明日香ちゃんから連絡が。雪の影響で新幹線に乗り遅れてしまい、予定の時間に到着するのが難しいとのこと。ならばと、1本遅らせた12時17分の列車に乗ることに。しかしこのことが、僕たちの今後の展開を大きく変えるのでした。

『秋田内陸線新聞』

少し時間に余裕ができたので、観光案内所にたくさんあるパンフレットを眺めたりしていると、様々なポスターが貼られている壁の足下に『秋田内陸線新聞』なる壁新聞を見つけました。おそらく最新号であろう28号の見出しは「秋田内陸線八景を選定!!」というもの。



この見出し一つとっても、やはり内陸線のみなさんがいかにあの手の手で盛り上げようと努力されているのかがわかります。これまでの号が重ねられていることに気づいた僕は、四隅にしっかりとめられた画びょうの下部の2カ所をはずし、下に重ねられたバックナンバーを日めくりカレンダーのようにめくっていきます。



それらを見ていくなかで、最も驚いた見出しがこれでした。



「目標を達成する見込み!! 赤字1億9600万円を予定」
ええっ?! 赤字目標? はて? 一瞬どういうことかわからなかったのですが、つまりは赤字を2億円以下に抑えようと努力してきた結果、なんとか無事赤字2億を切る見込み。なんとか無事赤字2億を切る見込み。という内容の記事(平成25年3月)でした。さらにそこには詳細な内訳も記してあり、それによると人件費や、ダイヤ見直しによる動力費の削減など、経費削減に向けた努力は続けつつも、肝心の鉄道収入が落ちているという現状。しかも定期、つまりは通勤や通学などで利用する人たちが



減少。それを定期外、すなわち観光客の乗車でなんとか補おうとするも、やはり完全にカバーするまでにはいっていない。と、そんな状況が見えてきました。

さらに気になった記事にこういうものがありました。「観光アテンダントによる内陸線の人気商品ランキング」。どんな商品があるんだろう? というのももちろん気になるのですが、それ以上に僕が気になったのは、観光アテンダントなる存在でした。「のんびりツアー」をとおして、往復約5時間も内陸線を利用した僕たちでしたが、ツアーのための貸し切り列車ということもあつたのか、観光アテンダントの方に会うことはありませんでした。それだけに、そもそもそういう方がいらっしやるということがとても気になったのです。

あきたびじん到着

そうこうするうちに、青谷明日香ちゃんが乗った新幹線が角館駅に到着。早速、すぐ隣にある内陸線の角館駅へと移動し、そのまま列車に乗り込みます。とにかく、こちらの状況



島本 島本美登里です。
矢吹 みどりんだ！
藤本 内陸線新聞で「みどりん」って名前で商品紹介されてませんでしたか？
島本 あっ載りました。ブログ名で載ってたので。平仮名で「みどりん」で載ってました。あ、今ちょうど、間もなく目の前が鉄橋になっております。右にカーブするとすぐ鉄橋を渡って行って…今、鉄橋に乗ります。
藤本 おお、きれい!!!
島本 紅葉が素晴らしい場所です。紅葉号も運行しているので、紅葉してる時はゆっくり走って見てもらってます。でも新緑もすごくいいので

藤本 みどりん的にはいつが好きですか。
島本 紅葉もですけど、名前にやっぱ新緑ですよ。でも雪景色だけを撮りたくて毎年撮りに来られる方もいらっしやいますし。
藤本 毎日乗る方もいらっしやるんですよ？通勤とか。
島本 いますね。学生さんだったり、先ほど降りたおじいちゃんとかは、ほとんど毎日、2日に1回は病院だったり、買い物だったり。阿仁の辺りに住んでる方たちは、角館のスーパーに行くか、鷹巣のスーパーに行くか、その日買うものによって違ったりしますね。
藤本 なるほど。そう考えると、大事な交通手段ですよ。
島本 そうですね、車もないですし。若い方が出て行ってるので、おじいちゃん、おばあちゃんの一人暮らし、二人暮らしの方がすごく多いんですよ。
藤本 お客さんとコミュニケーションをとることも多いんですか？
島本 お話しますよ。この季節になると地元の方しか乗らないときもあるんです。そういうときはアナウンスしてもしょうがないっていうのもある

れなんですけど…。
藤本 うんうん、もちろんもちろんですか？
島本 元氣ですか？とかってお話していく感じですよ。段々、おじいちゃんおばあちゃんがどこに住んでるとかがわかってきますし。向こうからも声かけてくれるので。山菜とかいただいたりとか。
一同 へえ。
島本 タケノコとか。本当に大量にいたって。山菜とか野菜とか「持って行って食べれ〜」って。
一同 いいなあ。
藤本 お子さんが今度、高校受験でしたっけ？
島本 はい。娘です。私と同じような顔して、同じ身長です。今度、高校です。受ければですけど。携帯とかパソコンばかりで、勉強は…親に似たんでしょうね。生意気ですけどやっぱ娘はかわいいです。
藤本 何か夢とかあるんですか？
島本 ちっちゃい子の面倒見がすごいよくて、保育士とかって言った



んですけど、中学校に入ってからもう…だから多分無理です。自分の昔のこと考えると、言えないんですけどね。いろいろな時代がありましたからね。
藤本 みどりんはこの仕事をする前は何をされてたんですか？
島本 私はイオンの子ども服売り場に7年間いました。その頃、まだ娘がちっちゃかったので、両親も仕事

してたこともあって、子どもを見る時間がなくて。
藤本 それで辞められたんですね。
島本 はい。そのあと3年くらい、自営の建築業を。ふつうに何て言うんですか、ツナギとか着て、タオルかけて。
藤本 事務じゃなくて？
島本 旦那が建築業をやってるので、ふつうに夏場とか作業着を着て、ヘルメット被って、タオルかけて、3年間脚立に上ったりしましたね。それで、そのあとにいろいろ、落ちたり受かったりして、内陸線のアテンダントに。

矢吹 どうしてやろうと思ったんですか？
島本 3年間、家の仕事を手伝ったんですけど、やっぱり外で仕事したくて。あと、接客業がしたくて。ちやうど内陸線を受ける1年前に初めて内陸線に乗って。娘と「阿仁熊牧場」に行っただけです。そういう思い出もあるし、その内陸線の観光案内ってことで受けてみようかなって。でも研修に入るまで列車の中って一切わかってなくて。列車ってわかった瞬間、無理です！みたいな。それでも頑張ってみようと思って、でも



今までしてきた仕事のなかで一番楽しいです。
一同 おお。
藤本 生き生きされてるもんね。
矢吹 お客さんから人気なんじゃないですか。
島本 そんなことはないですよ。下です。全員のアテンダントの列車に乗っていただけだね。それぞれまた違った…。例えば武田さんって方はバスガイドもしてましたし、民謡日本一です。
藤本 民謡日本一ってすごくないですか！
島本 若いときに1位にいられたとかで。当然唄とか唄えますし。
藤本 その人がお座敷乗ってくればいいね。
島本 指定してもらえれば、唄ったりもしてくれますよ。
藤本 壁新聞に「たけちゃん」で載ってた方かな。
島本 そうです。たけちゃんです。たけちゃんにも沿線の案内とか文章の作り方とか教えてもらいました。



Nairikusen Special 秋田内陸線 スペシャル

その①《角館～笑内間》

南の玄関口、武家屋敷が建ち並ぶ角館駅から、ニッポンの原風景のような田園をガタゴト。秋田最長のトンネルを抜けると、そこはマタギの里！

角館駅

かくのたてえき
秋田藩の支藩として栄えた城下町。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている武家屋敷通りや、桜の名所として有名な松木内川堤など、四季折々の美しさを堪能できる内陸線南の玄関口。最新のスーパーカメラレトロな内陸線を一緒に撮影できる「撮り鉄」人気スポット！



八津駅

やっえき
群生規模日本といわれる「かたくり」の花の大群生地。4月中旬から下旬にかけて、栗林いっばいに花が咲きます。秋にはこの栗林に、日本一大きいといわれる大粒の栗「西明寺栗」が実ります。大ききだけでなく、甘みや食感も抜群！



上松木内駅

かみひのき ないえき
秋田の小正月行事を代表する冬まじりのひょうし「紙風船上げ」会場の最寄り駅。100年以上の歴史をもつ伝統行事で、武者絵や美人画などが描かれた巨大な紙風船が冬の夜空に舞い上がるさまは、とても幻想的！

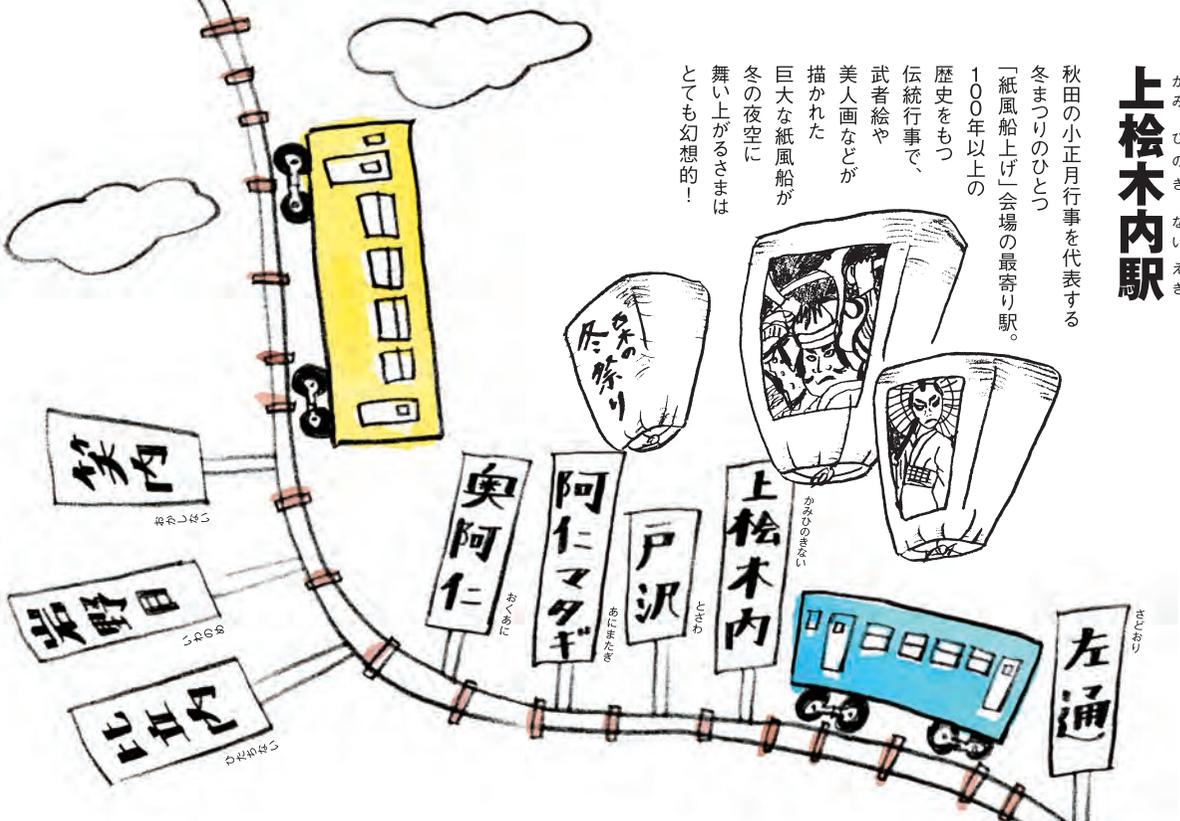
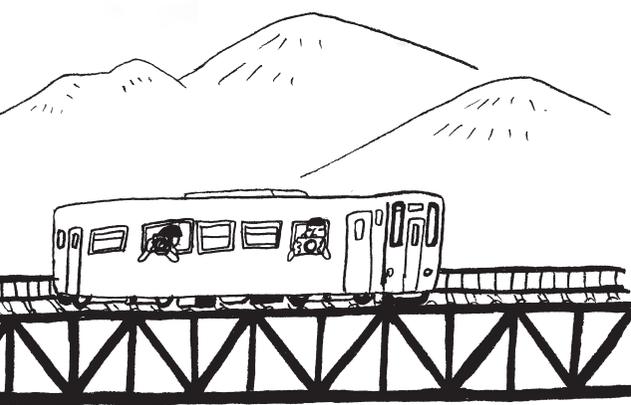
阿仁マタギ駅

あにえき
自然とともに暮らしてきたマタギの生き方を聞くことができる「マタギ語り」や、マタギと一緒に山を歩く「マタギ学校」、「日本の滝100選」第2位の「安の滝」をはじめとした名瀑巡りなど、マタギの里ならではの魅力がいっぱい！



比立内駅

ひたないえき
奥阿仁駅との間にある比立内川の鉄橋は沿線屈指の絶景スポット！比立内地域もマタギ集落のひとつで、駅近くの「道の駅あに」は、地元の人々の恵みや熊肉や熊油などマタギ文化ならではの品揃えがとっても魅力的です！



曲

づくり



藤原文雄さん

取材早々に訪れた、あきたびじ
 ん、みどりんとの出会いに、青谷明
 日香ちゃんを含めたのんびりチーム
 全員が、確かな手応えを感じている
 のがわかりました。2時間あまりの
 乗車を経て、終着の鷹巣駅に到着し
 た僕たちは、みどりんとの奇跡のよ
 うな出会いをどう昇華させるべき
 か、その答えを探るべく、大館が拠
 点のオートプロジェクトチーム『ア
 ートNPOゼロダテ』のみなさん
 が運営する『community station
 KITAKITA』という鷹巣駅からす
 ぐのスペースをお借りして、秋田内
 陸線旅行センターの藤原文雄さんに、
 内陸線の実情についてお話を伺って
 みることにします。藤原さんは、昨
 日までの「のんびりツアー」で
 大変お世話になった方で、ちょ
 うど今、鷹巣駅隣接の事務所に
 いらっしゃるとのことでした。

藤原さん(以下敬称略)「のんび
 りツアー」では、いろいろお世
 話になりました！
 一同(拍手)ありがとうございます
 でしたー!!



藤本 (ツアーの企画が) 本当に急な
 ことだったので。

藤原 いえいえ、のんびり編集部は
 すごいなあと思って。私だけが知ら
 なかったというのが本当に申し訳な
 くて(笑)。毎日のように(ツアーの
 問い合わせ)メールが入ってきまし
 て、お電話もありましたし、はじめ
 はどうなのかなうって不安なところ
 もあったんですけど。何かテクニッ
 クあるようでしたら教えていただき
 たい(笑)。
 一同(笑)。

藤原 みなさん、喜んで参加されて
 るっていうのが、すごい伝わってき
 ました。

藤本 『のんびり』は、県外の人に秋
 田に目を向けてほしいと思って作っ
 てる媒体なだけに、「実際に来てく
 れましたよ」っていうアクションを
 きちんと作ってたかったです。あと、
 県庁の人たちからも『のんびり』と
 して内陸線を取り上げてほしいって
 言われてたんですよ。なので僕たち
 『のんびり』として内陸線をどんな
 ふうに盛り上げることができるのか、
 もしくは、そもそも盛り上げたいと
 思うのか、ってことをきちんと確か
 めたいと、「のんびりツアー」を企画

させてもらったんです。

藤原 なるほど。ありがとうございます。

藤本 藤原さんがふだんご担当されているのはどんな業務なんですか？

藤原 内陸線をご利用いただくツアーというか、我々、旅行業の登録をしてまして、本当はインバウンドっていう外から内陸線に来ていただく企画を主としてやりたいんですけど、アウトバウンド、内陸線から他の所へ行く旅行のお手伝いの形も半分以

上になってると思います。収入の関係もありまして。だから本来はお客様にいかにして内陸線に来ていただくかっていう企画をさせていただいております。

藤本 実際、いろんな企画をされているなあ。『ごっこお玉手箱列車』以外にも、こんなおもしろいことをやってみたっていう企画はありますか？

藤原 例えば『ホテル列車』とか。車内を真っ暗にしまして、車内から



ホテルを見学していただく企画です。微妙なんですけどね、自然相手ですんで……。ここ何年かご覧いただけてますけれども。あと、今月は全国どぶろく研究大会がございまして、それに合わせて『どぶろく列車』っていうのを企画しましたね。

藤本 おもしろいですね。

藤原 沿線で造られている『マタギ

んで。かといって、経営状況を考えるとスタッフを増やすという訳にはいかない。とにかく地道にやってみてくれないですね。

大問題



藤原さんのお話はとても楽しかったのですが、やはりその奥にある切実さも強く感じざるを得ませんでした。僕は藤原さんのお話を経て、いよいよ秋田内陸縦貫鉄道の社長のお話を聞きたいと思い、秋田編集チーフ

ます。その問題とは、実は明日香ちゃん、現在レコーディング真っただ中で、今日のうちにまた東京に帰らなければならぬということでした。そして特集取材最終日にあたる、明日16日に再び秋田に来てもらうというの、明日香ちゃんに

対応してもらえな。ギリギリのスケジュールなのでした。しかしながら僕はハッキリこう思っていました。みどりんとの出会いをもとに、「あきた♥美人ライン」内陸線の曲を作りたい！と。しかも今夜中に……。

計画

取材最終日の16日、僕たちはある計画をたてていました。



るような風景になってしまうと思います。沿線の方々と協力しながらやってくれないんじゃないかなと思っております。そういう意味でも『ごっこお玉手箱列車』は大きな成功事例じゃないかなと考えてます。実際、列車よりも車の方が速いってのがあるなかで、列車じゃなきゃいけないのは何なのかと。

藤本 今日僕たち、たまたま、みどりん、美登里さんにアテンドしてもらいながら、ここまでやって来たんです。

藤原 あ、畠本美登里さん、観光ア

テナダントの。

藤本 本当に素敵だったんです。僕

たちといろいろな話しながらも、馴染みのおじいちゃんが降りる駅だかなと思ったら、さっとおじいちゃんのところに行つて「松葉駅もうすぐですよ」って。ふだんのお客さんのアテンドも、観光としてのアナウンスも臨機応変でスマートで。そういう姿一つみても、あく、内陸線としてやれることをそれぞれが全力でやってるんだな。けれどそれは最終的に数字で判断されていくから、いろいろと言われるかもしれないけれど、僕たちはそこをまず感じたので、それが良かったなと。

藤原 ありがとうございます。

藤本 だから僕は、内陸線じゃないとダメなんだっていうことの一つが、みどりんをはじめとした観光アテナダントさんじゃないかって思ってたんです。みんながアテナダントさんに会いに来たくなるような……そのことについてまだぼんやりですけど考えています。

藤原 我々も企画自体はいろいろと考えているんですが、ツアー担当が2人しかいないので、なかなか、出て歩けなかったりして。どちらかがどこかに行くときどちらかが残って、窓口もありますし、電話とかあります



それは取材の成果を発表することも含めて、角館へ鷹巣の往復に、お座敷列車を貸し切り、『のんびり』2年間お疲れ様でした打ち上げをしよう。ということでした。ということ、なんとか明後日のお座敷列車のなかで、作った楽曲を発表したい、と思ったのです。しかし次に明日香ちゃんややってくるのは、その当日の16日。ならば、なんとか今日のうちに楽曲を完成させて、16日に臨みたい！と思ったのでした。

あまりに無謀なこの気持ちは、しかし僕だけのものではありませんでした。なんと明日香ちゃん自ら、今晚ではなく、明朝の始発列車で東京に戻ることになったとかスケジュール調整できないかと、何度も東京に電話をして交渉をしてくれていたのです。しばらく電話を繰り返した明日香ちゃんからのOKサインに、今号もやっぱり、のんびりチームのZOMBのんびりスイッチがONに。そうと決まれば、大急ぎで今晚のお宿、比立内にある「松橋旅館」へと向かいます。

チームみんなの、いいぞいいぞ、というザワザワした空気が伝わってくるなか、僕はそこであらためて、自分が考えた歌詞を明日香ちゃんに伝えます。さらに、この部分を大切にしたい。このエピソードを入れたい。という僕の思いが、明日香ちゃんと共有できていることを確認して、明日香ちゃん本日2回目のひきこもりタイム。そこから待つこと約3時間。明日香ちゃんが頑張っているなか眠るわけにはいかないぞと、みんなが必死に眠さとたたかうなか、ついに夜中の2時過ぎ、明日香ちゃんが再び部屋から出てきました。1回目以上の緊張感のなか、歌ってくれたその曲に、みんなそれぞれ心が震わせていました。あまりの感動と、明朝このまま東京に戻ってレコーディングだという明日香ちゃんへの申し訳なさと、やっぱりもって眠さ、とにかくいろんな感情がごちゃごちゃになって、もう僕たちが放った言葉はたった一つでした。

「おつかれさまでしたー！」
このときほど感情のこもったお疲れ様でしたを僕は他に知りません。



曲づくり

松橋旅館は、マタギの宿としても有名で、滅多に手に入らない熊の内臓の鍋や、エゾシカ肉の鍋。天然マイタケのバター炒めなどの山菜料理、煮しめなど、豪華なマタギ料理でもてなしてくださいました。すっかり腹ごしらえを済ませた後は、さあ、いよいよ楽曲づくり。僕が伝える断片的な言葉と、今日の出来事をもとに、イメージを膨らませてくれる明日香ちゃん。しばらく一緒にイメージを共有したあと、明日香ちゃんは一度部屋にひきこもって創作することに。1時間半ほど経った23時。部屋から出てきた明日香ちゃんに一同注目。全員が固唾を飲んで見守る異様な空気のなか、曲を披露してくれます。じっと耳をすますのんびり



あきた びじん を探して



1月15日(水)

特集取材2日目。早朝6時。実は明日香ちゃんとは高校の同級生だという、のんびりデザイナーのシブ(澁谷)が、東京に戻らなければならぬ明日香ちゃんを比立内駅まで送迎。睡眠時間3時間もなく、本当に申し訳ない気持ち。しかも大事なアルバムのコピーの合間にぬって、なんとか今夜中には昨夜作ってくれた曲を録音して音源を送ってくれるというから、もうただただ感謝でした。



佐藤さん

明日香ちゃんが東京へと向かっている間、残った僕たちは旅館近くの比立内の町でちょうど開かれています。



朝市へ。ブルーシートで区切られたテントの下に魚屋さん、荒物屋さん、青果屋さんなどが並び、地元のお母さんたちが買物をしています。僕たちも一緒に歩いて歩いていると、朝市のすぐ向かいに立派な神社があることに気づきました。ほとんどが雪に埋もれているなか、お参りできるかも……と、踏み固められた階段を上がってみることに。するとそこに一人の男性がいました。佐藤和徳さん44歳。「JAあきた北央」で働いてる方で、神社の隣の公民館で、お客さんと待ち合わせをされているとのことでした。

佐藤さん(以下敬称略) うちの親の時代からみれば、もう5分の1、6分の1くらいの人口。長男であつても秋田市とか出て行っちゃって家建てちゃえばみんなそっちになる。

藤本 若い人がどんどんいなくなってるんですね。

佐藤 こっちは戻ってこいって言うても仕事がないので、なかなか来てくれない。

藤本 佐藤さんは、内陸線に乗ることありますか？

佐藤 中学のとき以来、なかなか乗



りましたけど、なんかそういうイベントがないと乗らない。でも乗ってみればね、合川から鷹巣までの短い距離でも、すごくいい風景があって、でもやっぱり車使っちゃうほうが多いから。

ひよんな出会いから、お話を聞いてみた佐藤さんでしたが、その言葉はとてもリアルで、僕たちはそれぞれに内陸線の未来について考えを巡らせました。

酒井社長

さあ、そろそろ時間です。僕たちはいよいよ秋田内陸縦貫鉄道の酒井社長にお会いするべく、秋田内陸縦貫鉄道本社のある、北秋田市役所阿仁庁舎に向かいます。約束の時間、酒井社長はニコニコと笑顔で僕たちを出迎えてくださいました。

藤本 お忙しいところありがとうございます。ごさいます。

酒井社長（以下敬称略） 明日、貸し切りで何か……ウチのアテンダントが、観光アテンダントとしてって話を聞きましたけど。

藤本 そうなんです。今回、あらためて内陸線に乗ってみようってなったときに、たまたま乗った急行列車に、みどりん、畠本美登里さんがおられたんです。それで僕たち初めてアテンドしていただいて。それが本当に良かったんですよ。それでそもそも、「あきた♥美人ライン」って名称ありますよね……。



酒井 一応、名前は付いているんですけど、まだまだ……。実際には。

藤本 そうですよ。確かにその名称の由来を探してみても、仙北市に美人が多いっていわれてるからとか。

酒井 仙北は秋田美人の、ある意味、本場みたいな流れがあるんですよ。

藤本 そこはそれでなんとなく理解

できつつ、けどどうも釈然としな部分もあって、そんななかで、どういうふうに見せていけば、「あきた♥美人ライン」と「内陸線」が繋がっていくのかなあってことを考えてたときに、そもそも僕たちが作るこの『のんびり』の始まりってというのは、秋田県が打ち出した「あきたびじょん」っていうキャッチコピーがきっかけなんです。

酒井 これいいですね。

藤本 はい、この「よ」が限りなく小さく見えて、あきたびじょんに見えるってこのコンセプトワードの現実的な中身を、具体的に模索提案していくのが、この『のんびり』だと。そんななかで、僕たちは一つ「あきたびじょん」っていう言葉の概念をあらたにしたいと思っただけです。つまり「あきたびじょん」というのは、容姿端麗っていうことだけじゃなくて、冬の厳しい秋田の地で、実直に生きている人たちが、そんな暮らしぶりや生き方そのものが美しい人たちを「あきたびじょん」と呼べばいいんじゃないかと。そう考えたときに、僕はまさに、みどりんは容姿も端麗なんですけど、それだけじゃなくて、アテンダントになりたての



ときに娘を連れて内陸線に乗って、ジュンコさんってバスガイドやってた先輩のアナウンスを一生懸命メモして勉強したり、そもそも角館辺りでパンフレットでも配るのかなと思っていたら、「えっ列車に乗るの?」「マイク使ってしゃべるの?」「そんなできない!」って泣いたりしたけど、でもその都度「もうちょっと頑張ってみよう」ってポジティブに前向きに考えて、「今一番楽しい」って話してくれる、そんなみどりんのまっすぐな強さが、僕らのなかで「美しいなあ、秋田美人だなあ」とってすごく思ってたんです。なので、この偶然のようでも必然な、みどりんとの出会いを誌面でも大事にしたいなと思ってるのがまず一つ。

酒井 なるほど。

藤本 さらに僕たちとして、みどりんとの出会いのおかげで、内陸線が大好きになったんです。角館から鷹巣までのたった2時間ほどの間で。こんなにもいいものかって思っただけから、そのことを伝えるために、いったい僕らは何ができたのかと考えたときに一つ、思いついたことがあって。

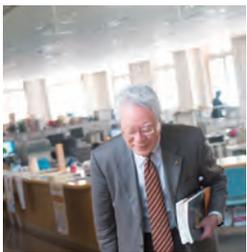
酒井 おお。

藤本 それは車内放送だったり、駅の発着の音楽だったり、すごくみんなの記憶に刷り込まれたり、原風景を音から思い出して、内陸線に乗りたくなるような、曲、歌を僕らとしてご提案させてもらえないかってことなんです。昨日も鷹巣駅にいると、高校生が待合室で電車待ちながら、ボーとしてるか、ひたすらゲームするから、そういうときでも何か音楽が流れていたりとか、発着だけでも何か流れたりとかしたらいいなと思って、それで具体的な話なんです。僕たちが本当に大好きな青谷明日香というミュージシャンがいるんです



ね。秋田県出身で。
酒井 秋田県出身ですか？
藤本 はい、ちょっとこれ聴いてもらえますか？
 (『あんべいいな』の曲を流す)
酒井 これ、よく店頭で聴いたりしますね。
藤本 そうなんです。実はこの『あんべいいな』を作ったのが青谷明日香なんです。なので僕たち、急遽、明日香ちゃんを東京から呼んだんです。カツカツのスケジュールのなか、来てくれたんですね。それで、みどりんに出会った昨日の急行列車に青谷明日香ちゃんも乗ってくれてたんですよ。なので昨日、僕たち実は徹夜で、夜中に明日香ちゃんにキーボード弾いてもらって、メロディを固めて、そこにさらに詩をつけたりして。
酒井 作詞作曲をしたんですか？
藤本 はい。それで実は、彼女が今自分のアルバムのレコーディング中なので、始発で東京に帰って、そして明日またもう一度来てくれるってことで、そこでお披露目をしたと思います。いるんです。
酒井 あーなるほど。
藤本 なので、明日どこか酒井さんのご都合のいいときにお時間いただ

けないかなあと。
酒井 明日はね、秋田市にいます。だから角館まで帰ってきたとしても16時ぐらいになりますね。
藤本 じゃあ僕たちちようど、明日貸し切るお座敷列車がそれくらい時間に角館に帰ってくるので、ぜひそこでお時間ください。
酒井 つまり、新しく作詞作曲した歌を、できれば鷹巣とか角館で発車に合わせて、そのメロディを流すとか……。
藤本 それもこれも聴いてもらわな
酒井 そうですね……。
藤本 よろしくお願いします！



ふれあいショップひまわり

酒井社長とお話を無事に終えた僕たちは、阿仁合駅の駅舎にある、秋田内陸縦貫鉄道直営のレストラン



「ごぐま亭」でお昼を食べようと阿仁合駅に。かしなんと定休日！残念だなぁと思うつつ、内陸線の事務所窓口にいた、観光アテンダントの橋本さんにお勧めのお店を聞いてみると、駅の真向かいにある「ふれあいショップひまわり」の食堂は開いているはずと教えてくれました。いきなり大人数の来客に、困惑ぎみのお母さんたち。「ふだんはこんなに大勢こないし、お昼の波は過ぎちゃったところだから、材料ないけどまあなんとかやってみる」と、とに

かく作れるものを作れるだけ出してくれました。カレライス、カレライス、あんかけだまっこ、の3品。みんなでじゃんけんして取り合うも、口々に「おいしい、おいしい」と言っている、お母さんたちも「あら、よかった。なんとかなるもんだね。私がお母さんたちのおかげで、そんなお母さんたちのおかげで、なんとかお腹ごしらを済ませた僕たちは、あらためて今やれることについてアイデアを出し合い、今後の行動を整理します。そこで決まったことは以下のとおり。

●明日の『のんびり』打ち上げお座敷列車、角館〜鷹巣〜角館という往復のアテンダントを、みどりんにお願いする。

●今回の取材中に撮った写真をプリントして、列車内であきたびじん写真展をする。

●そのためには、みどりんだけでなく、ほかのアテンダントの方も含め、もつとあきたびじんを撮影する。

●列車の出発は、角館11時発、鷹



乗着13時半。そこからまた角館に向けて折り返し出発するのが14時20分。その待ち時間の間に、明日香ちゃんと作った曲を打ち上げ参加メンバーのみなさんに披露。(みどりんには内緒)

●さらに、その歌をみんなで歌えるように練習。

●再び角館に向けて走る列車は、ふつうに宴会しつつ、角館到着。

●最後、角館の観光案内所のスペースをお借りして、酒井社長とみどりんに曲を披露。

アテンダントの2人

ということで、藤本&カメラマン 鍵岡・陽馬チームと、ヤブちゃん&カメラマン 浅田チーム、2班に別れて取材を続けることに。再び阿仁合駅に行き、アテンダントのみなさんの乗車スケジュールを確認。ヤブちゃんチームは内陸線に乗り込み、藤本チームは阿仁合駅にいらっしやるアテンダントさんを撮影&取材。さあ、のんびりしていられなくなってきました。とにかく僕たちは、唯一の20代のアテンダントという橋本由子さんと、民謡日本一の経歴を持つ

という、たけちゃんこと、武田千鳥さんからお話を聞くことに。

橋本由子さん

藤本 橋本さんは初めての働き口がここだったんですか？
橋本さん(以下敬称略) いえ、最初に入ったのは秋田空港で、ANAのグランドアテンダントだったんですけども。
藤本 なるほど。
橋本 その後に派遣で工場とかで働いてみたりとかもしたんですけど、そのときにリーマンショックと





「世界的に大きな波がありまして（笑）。その後ここに。そもそも地元で、いつも松葉から角館まで内陸線を使う側の住民だったので、最初は求人票見て観光案内って書いてても何もイメージがわかなかくて。なので勝手に、駅で案内する受付の人かスガイドさんみたいにするとは思ってなかったですね（笑）。だから最初は緊張の連続で。特に仙北市のほうは近所の人とかが乗るので「あや、よしこちゃんだね！」「んだの〜」って（笑）。そこからいろいろ。やっぱり地元の方に助けられましたね。そ

こからみなさんに先生になっていた。だいて。
藤本 なんかすごく楽しそうですよ。ね。
橋本 はい。ほんとに楽しいですね。地元の間人なので、地元の間人が地元の間人を紹介して、観光のお客さんがすごく喜んでくれる、そのリアクションがとても嬉しいんですね。なので、「今日乗ってよかった」って言うっていただいたら「私もです」って（笑）。
藤本 それだけ楽しかって心から言えるって幸せですよ。
橋本 そうですね。接客業なので、



いろいろな方もいらっしやいますけど。でも、たぶんアテンダント全員が思ってるのが、仮にその方自身に何かあって不機嫌で乗られたとしても、その顔を笑顔にしてみせようっていうので。挫折する時もあるんですけど（笑）。みなさん楽しみ方も違うので、今何を求めているんだろうっていうのを探りながら、それをうまく汲み取れて、はまったときが一番、良かったって思いますね。でもほんとに私は半人前なので、まだまだ勉強なので、今帰ってこられた武田さんの場合はお客さんの顔見た瞬間に、よしっ、この案内だっというふうになると思うんですけど（笑）。

申します。たけちゃんです（笑）。藤本 よろしくお願ひします。たけちゃんは、民謡日本一って聞いたんですけど。
武田 昔の話ですね。
藤本 いつ頃の話ですか？
武田 日本一というか、中学生の頃かな。筑波万博が会場だったんです。日本民謡協会の。そこで一番いい賞をもらいました。

藤本 あ、たけちゃんですね。すごい、ベテラン漫才師みたいだ（笑）。橋本 臨時列車とかでペアを組ませていただく、今でも武田さんのアナウンスを聞くと鳥肌が立つので。藤本 それハードルあげてませんか？橋本 そろそろ怒られそうです（笑）。

藤本 すごい、日本一ですよ。武田 その後、平成の年になってから、子育ても一段落したのもう1回がんばってみようかなと思ってチャレンジして。そのときは国技館でやったんですけど、4位だったんです。
一同 おおー！

武田 それで止まっています。私の記録は。ただ、練習してないので。だから唄は本格的にはやってないんです。

武田千鳥さん（たけちゃん）

一同 はじめまして。
武田さん（以下敬称略） 武田千鳥と



けれども、例えば秋だったら田園風景のなかを走るわけです。それに合わせた曲というのがいろいろ、秋田県は民謡の宝庫なので、気分が乗ってきたら披露しようかなという感じで(笑)。

藤本 明日お願いしてもいいですか？

武田 そうですね、ぜひ。私たち、秋口にかすりを着たんです。もんべです。なのでもし取材であれば。今、社長ともちらっと話したんですけど、みどりも制服なので私はずもんべでもいいかなって(笑)。

藤本 それいい！

武田 いいですか？

藤本 最高です。

(そこにヤブちゃんチームから電話が……)

鍵岡 明日、柴田ハルエさんっていうおばあちゃんが一緒に乗ってくれるらしいです。

武田 ああ、ほんと!?

鍵岡 今、電話があった。

武田 ハルエさんは昔一緒に。鍵岡 ちょうど今、別のチームが駅で会って、駅で民謡唄ってくれたらしいんですよ。それで……。

藤本 へえ。すごい！ また繋が



ってきた！ しかしアテンダントのみなさんそれぞれ個性のおもしろいね。

武田 アテンダントもここまで来るのいろいろなあったのでね。ただ、今いるメンバーに支えられて、やっとここまで来たかなって。女の職場っていろいろありそうなんですけど、研修とかに行っても「すごい仲いいね」って言われます。

藤本 その空気が出てますよね。誰に会ってもキラキラしてる。

武田 では明日は振り袖着ますので、驚かないように(笑)。

橋本さん、武田さん2人のとっておきの笑顔に、僕たちはあらためて「あきたびじん」のなんたるかをみた気がしました。と、ここでヤブちゃんチームの出会いについても書いておかげです。先ほど、たけちゃんこと、武田さんのお話の途中でヤブちゃんから電話がかかってきましたが、このハルエさんというおばあちゃんとの出会いが、また僕たちに大きなミラクルを運んでくれることになりました。ヤブちゃんの取材メモを公開します。

ヤブちゃんノート

アテンダントさんの撮影のため内陸線に乗り込んだ私たち矢吹チームは、列車内での撮影を終えて、比立内駅で下車。

駅中にあった施設にふらり入ってみると、その管理をする方とおばあさんがお茶を飲んでいたので、話しかけてみました。

「私はいつも、電車入るときに手を振りに来てるの」

と話すおばあさん、柴田ハルエさん。



ハルエさんは、この駅のすぐそばに住んでいて、春になるとホームに花を植えて、毎日手入れしているとのこと。「一番先に咲くのはチューリップ。その脇さショウブも植えてるし、ユリも植えてるし。それが過ぎると百日草とが、コスモスとが。花が出る頃なれば、花屋さん行って、花買ってきて、そこさ植えて……」

その様子がテレビで取り上げられたとき、ホームで手を振った姿が印

象的だったようで「手を振るおばあちゃん」として一躍人気者になったハルエさん。それから、時間があると手を振るために、わざわざ駅までやってくるのだそう。

「千葉がら遊びにきたおばあちゃんがいるの。『テレビの笑顔に惚れた』って(笑)。うちさ泊まって話したいって言うが、きりたんぼ鍋ごちそうして、裏山がら採ったぜんまいも出したら『こんなにおいしいものあるんですね！』って(笑)。ほかに電車の中で知り合った人で『ハルエさんの声聞くと勇気もらえる』って、1週間に1回は必ず電話くれる人もいるよ」

旅人と仲良くなるのはお手のものなハルエさん。民謡をやっているというので、1曲お願いしますと、間髪入れずに唄い出しました。

「お〜ぼ〜こ〜な〜あ、な〜んぼ〜に〜な〜る〜 この〜と〜し〜く〜る〜と〜とおと〜な〜つ〜に〜く〜な〜る〜」



わ〜〜!!!

ハルエさんが唄ってくれたのは秋田民謡の代表曲「秋田おぼこ」。なんともハリのあるその唄声に、大感動の私たち。思い切って、明日のお座敷列車と一緒に乗ってもらえないかお願いしてみます。

「ふふふ。乗ってもいいよ(笑)」

やったー！ 決まり！ 決まり！ 明日、比立内駅から乗ってもらうことに。

「せば、ばんげ(夜)に練習しなきゃならぬ」

と笑うハルエさん。明日の旅に楽しい仲間が加わりました！



Nairikusen Special 秋田内陸線 スペシャル

その②《笑内～鷹巣間》

厳しくも美しい山々の間をガタゴト。
平野部に抜けると、そこには縄文の遺跡群！
北の玄関口、鷹巣は知る人ぞ知るグルメの町！！



阿仁合駅

秋は絶景の紅葉、冬はゴンドラに乗って気軽に樹水が見られる森吉山の入口駅。東北の駅100選に選ばれた駅舎には、アマンダントさん自らが販売する内陸線グッズも充実！駅舎内の「こぐま亭」で楽しめる名物馬肉料理は絶品！

笑内駅

地名でもある「おかしない」という読みがとってもユニーク。国重要無形民俗文化財の「根子番楽」が今も受け継がれている根子集落の玄関口。文学的な歌詞や格調高く勇壮な舞の根子番楽は、能楽の先駆けともいわれています。

桂瀬駅

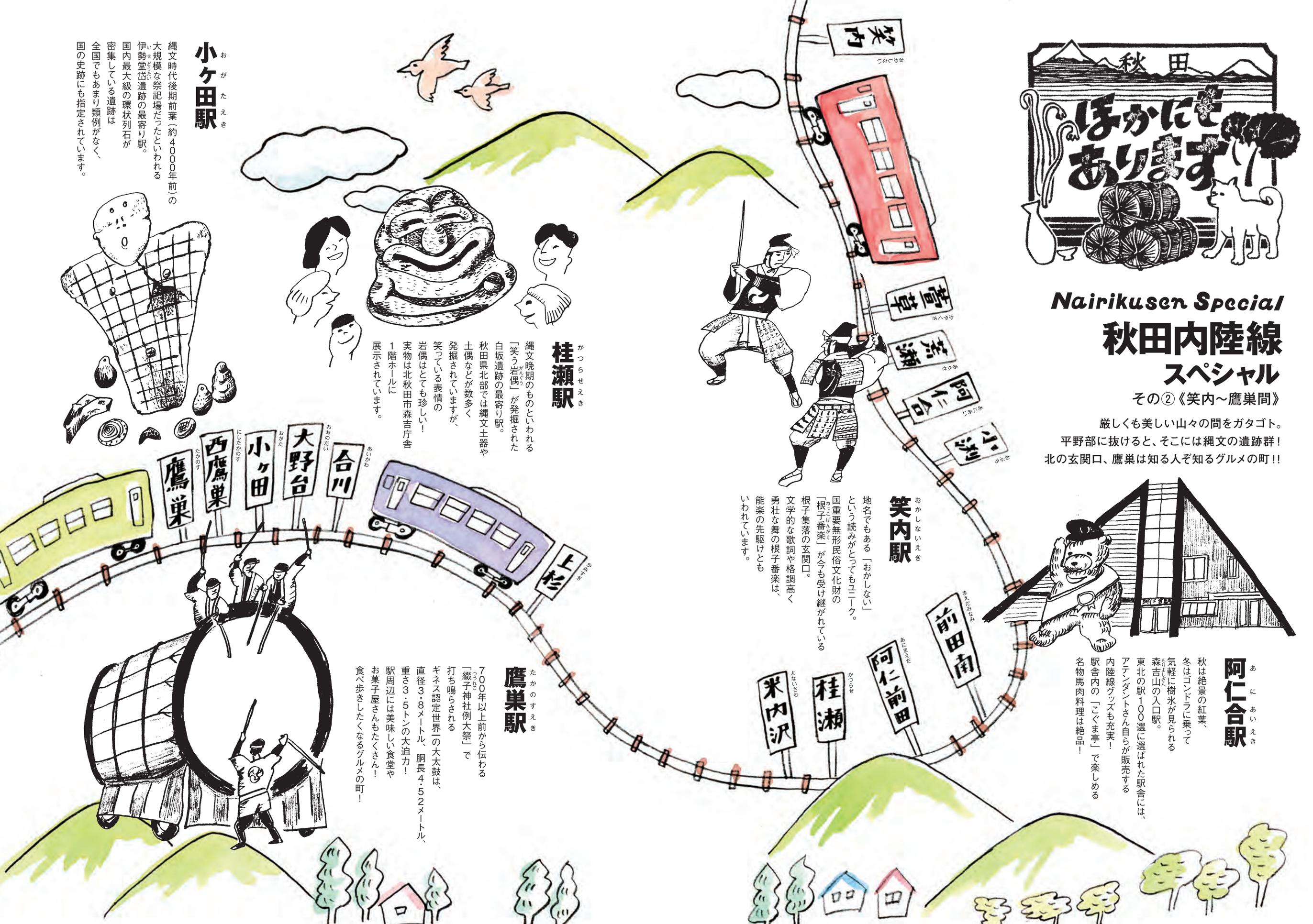
縄文晩期のもものといわれる「笑う岩偶」が発掘された白坂遺跡の最寄り駅。秋田県北部では縄文土器や土偶などが数多く発掘されていますが、笑っている表情の岩偶はとても珍しい！実物は北秋田市森吉庁舎1階ホールに展示されています。

鷹巣駅

700年以上前から伝わる「綴子神社例大祭」で打ち鳴らされる、ギネス認定世界1の大太鼓は、直径3・8メートル、胴長4・52メートル、重さ3・5トンの大迫力！駅周辺には美味しい食堂やお菓子屋さんもたくさん！食べ歩きしたくなるグルメの町！

小ヶ田駅

縄文時代後期前葉(約4000年前)の大規模な祭祀場だったといわれる伊勢堂遺跡の最寄り駅。国内最大級の環状列石が密集している遺跡は、全国でもあまり類例がなく、国の史跡にも指定されています。





最終章

みどりの なかを



明日の準備

取材撮影を終えて再び合流したのんびりチーム。早速明日の準備にかかろうとするも、列車内で写真展をするためには、写真を印刷するプリンターが必要。と、ここで実は内陸線沿線の根子というところに住んでいるカメラマンの陽馬くんが大活躍。今朝、酒井社長とお会いした阿仁庁舎で働き知り合いからプリンターを借り、さらに自宅まで写真印刷用紙を取り戻してくれることに。こういうところが、県外在住と県内在住混合チームのいいところ。



20時、松橋旅館に到着したのんびりチームは、早速怒濤の作業をスタート！ まずカメラマンチームは写真展のための写真セレクト&プリント。さらに、浅田くんが主体になって曲に合わせてスライド映像を作成。女子チームは列車内の飾りづくり。田宮さんとシブは歌詞カード兼みどりンプロマイドを作成。そして僕は、東京にいる明日香ちゃんと歌詞を詰めながら、明日車内でみどりんにアナウンスしてもらうための原稿づくり。しかし毎号毎号よくやるもんだと思いつつ、2日続きの深夜作業。なんと夜中の3時半。すべての作業が終了し就寝……バタツ。

1月16日(木)

朝8時半、お世話になった松橋旅館を出発。豪雪のなか、なんとか10時半に角館駅に到着。『のんびり』打ち上げ列車の準備にかかります。乗車時間が近づくにつれ、『のんびり』関係者が次々と角館に集合。『のんびり』の題字を書いてくれているイラストレーターの須田剛光くんや、細々とした撮影を担当してくれている高橋希さん、さらには秋田県庁のみなさんなど、秋田県内在住メンバーはもちろん、本誌アートディレクターの堀口努さんや、『下戸式』連載中のイラストレーター福田利之さん。それにしばらく特集部分の撮影を担当してくれていた写真家の広川智基くんなど、県外チームもやって来てくれました。そしてもちろん、青谷明日香ちゃんも無事に角館到着！

のんびり列車、出発！

のんびりカメラマンチームが必死で写真展示するなか、僕は、みどりんに今日の趣旨を説明して、昨夜考えた原稿の内容を伝えます。発車5分前でなんとか飾りつけを終えて、



みなさんに列車に乗ってもらいます。落ちつく暇もなく、ゆっくりと列車が動き出すと、みどりんのアナウンスがはじまりました。

みどりん 本日は、「あきた♥美人ライン」イン、内陸線へようこそ。ご乗車いただきありがとうございます。

一同 いえーい！（拍手）

みどりん 「あきた♥美人ライン」は、美人の宝庫秋田県の内陸を走る列車です。ちなみにここでいう「あきたびじん」とは、単純に容姿のことだけを言うのではありません。秋田という自然豊かな土地で、キラキラした笑顔とともに、たくましく暮らす美しい人たち。そんな素敵なたちをこそ「あきたびじん」と呼ぶのだと思っております。ゆえに、こ





の「あきた♥美人ライン」にご乗車いただき、沿線を巡っていただければ、きっとたくさんのあきたたびじんに出会えることと思います。今日は、私、みどりん、鷹巣に着いてまた角館に戻ってくるまで、ずっと一緒に過ごしますのでどうかよろしくお願ひいたします。

一同 いえーい！（拍手）

みどりん 一昨日、角館から終点の鷹

巣まで急いでみなさまと偶然にもご一緒させていただきまして、すごく楽しく過ごさせていただきました。みちのくの小京都と言われております角館から、終点の太鼓の里、鷹巣まで、94.2キロ。見どころやイベントがたくさんございます。そちらご案内してまいりますので、よろしくお願ひいたします。

一同 わーい！（拍手）

矢吹 乾杯しよー！

藤本 はい、では、みなさん



お疲れ様でした。今日はよろしくおねがいます！ かんばーい！

一同 かんばーい！

ということ、のっけからみんなハイテンション。序盤の自己紹介タイムでは、デザイナーのシブが興奮しすぎて鼻血を出すなど、まあ大盛り上がり！ 秋田らしくというのか、まだ昼間だというのに秋田の美味しい純米酒を注ぎ合ひ、それぞれにこの2年間の頑張りをねぎらいあいます。

ハルエさん

みどりん 車内のお写真にも載っております。柴田ハルエさんが間もなく乗車されます。比立内駅にはお花がいっぱい飾られているんですけど、でも、そのお花の手入れをしたり、ふだんからよく列車を利用してくださっております大変大切なお客様でございます。

矢吹 柴田ハルエさんです！ 今日

はようこそお越しくださいました！

一同 （拍手）

矢吹 昨日、比立内駅で降りたら偶

一緒に鷹巣まで行って、鷹巣からまた戻ってきて、比立内まで一緒に楽しんでいただいてもいいですか？

ハルエ よろしくお願ひします。

矢吹 みなさんもよろしくお願ひします。

一同 （拍手）

みどりん みなさん、ただいま阿仁合駅が見えてまいりました。

—— 阿仁合駅より、たけちゃんがも

みどりん お待たせいたしました。たけちゃんです！

一同 わーい！（拍手）

みどりん こちらが、私の大好きな、仲良しのたけちゃんでございます。ここからは、たけちゃんと一緒に案内をさせていただきますので、よろしくお願ひいたします。

一同 たけちゃん！（拍手）

たけちゃん ご紹介にあずかりました、たけちゃんこと内陸線アテンダントの武田千鳥と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

一同 （拍手）



たけちゃん みなさんお越しいただきましてありがとうございます。今日は、特別なお座敷列車ということでございまして、私、中に乗ってびっくりしたのがこの美しい美女の写真。もうびっくりしました。

一同 （拍手）

たけちゃん ありがとうございます、ほんとに。いつの間にこのように撮られてたかなあ。

一同 （笑）。

たけちゃん みなさんご存じだと思いますが、内陸線は、「あきた♥美人ライン」という呼び名で呼ばれてい

る訳なんです。秋田美人が南のほうから出てると。せば、必ず聞かれるのが「アテンダントさん、どこ出身なの？」って。言いたくないんですけど、私ね。

一同 （笑）。

たけちゃん 「北のほう出身です」って言うのと「あ、どうりで」って必ず言われてしまうんですよ。まあ、私は内陸線の藤あや子で通ってるんですけれども。

一同 よーっ！

たけちゃんの登場に、さらに盛り

然お会いして、少しお話をさせていただいたら、日々、駅に通って、列車に手を振っていらつしやるというお話を聞きました。あ、昨日撮った写真がこんなところに。（驚きつつも喜んでいる様子のハルエさん）今日は来てくださってありがとうございます。ハルエさん（以下敬称略） どうもどうも。

矢吹 この後、乗ってくださるアテンダントの武田さんともお知り合ひなんです。武田さんの師匠がハルエさんだって聞きました。今日は



上がる車内。有名な秋田民謡『生保内節』をたけちゃんが唄ってくれたり、ハルエさんと一緒に『秋田おぼこ』を唄ってくれたり、2人の唄声にみんな大感動。

たけちゃん 民謡ってすごく声張るんですけど。民謡は全部地声でいくので。私もいろんなジャンル聞きましてたけど、いろんな勉強をしても、やっぱり民謡は難しい。

ハルエ 70ぐらいだったらば、どんな唄も人さついで唄えた。だども今は（笑）。

たけちゃん だけど練習してるからこのくらい声がたつんですね。

矢吹 毎日唄ってるんですか？

ハルエ いや、ひと月に半分（笑）。カラオケと違って民謡は突然は声出ないの。いやあでも、この歳になって、こういう旅をするとは全然思わなかった。3月19日ければ、88になります。

一同 わーい！（拍手）

その後、ハルエさんが『秋田大黒舞』という秋田民謡を披露してくれるなど、大盛り上がりのなか、あっという間に終着の鷹巣駅に到着。列

車の準備がある、アテンダントのみどりんとたけちゃんの2人を列車に残し、みんなで、一昨日藤原さんにお話を伺った『community station KITAKITA』へと移動します。そこで、打ち上げ参加のみなさんとハルエさんに、これまでの事情を説明。いよいよ明日香ちゃんと一緒に作った曲をお披露目します。歌詞カードをみなさんに配り、カメラマンチーム渾身のスライドを上映。その後、明日香ちゃんが生演奏。

ではここで読者のみなさんにも歌詞を公開！



「みどりのなかを」

ガタゴトはしる内陸線 角館から鷹巣へ
今日も私はマイクを持つ

はじめて娘と乗る列車 のんびりまっすぐ前に行く
なんだか私たちみたい

半人前の内陸線 先輩のガイド、娘と2人
必死にメモした遠いあの日

行っっては戻る線路は まっすぐのびるひとすじの光

みどりのなかを 小さな手をつないでいくよ

みどりのなかを 帰っていくよ愛しいあの家へ

月日が流れ、もう5年 そばで仕事を見てた娘は

もう年ごろで乗ってくれないの

行っっては戻る線路は まっすぐのびるひとすじの光

粉雪のなかを 同じ顔のあの娘に会いに行く

真っ白のなかを 進んでいくよ愛しいあの家へ

ガタゴトはしる内陸線 鷹巣から角館

今日も私はマイクを持つ

明日香ちゃんの歌声に、みんなの胸がじわじわと熱くなっていくのを感じつつ、みどりんには自慢の娘さんがいるのだと、歌詞について僕が説明をはじめたときのことでした。突然ハルエさんがこんなことを言います。



ハルエ 最初の頃ね、娘さんと一緒にきてあったのよ。

一同 え？

矢吹 ハルエさん、見たの？ 娘さんと一緒に乗ってるの。

ハルエ 角館から鷹巣までの間の雰囲気身を付けたって、乗ってきたの。

一同 えーっ！っ！！

まさかの展開に、驚き半分、感動半分で、のんびりメンバーの何人か



は、思わず号泣。みどりんのお話のなかで、僕がどうしても歌詞に入りたいと明日香ちゃんにお願いしたのは、まさにこのエピソードでした。小学生の娘を連れて内陸線に乗った新人アテンダントのお母さんと、その姿をじっと見ていた娘。その情景に僕は、脈々と引き継がれていくあきたびじんの本質をみたような気がしたのです。そしてその姿を、もう一人のあきたびじんが見ていたなんて。「すばらしい。ほんとの思い出だ。最初から知ってるんだもの。2人で乗ってきてね。高校生になるんだもんね。すごいね」そうつぶやくハルエさんに、僕はもう、心の震えがとまりませんでした。

うつくしい秋田

結局、再び角館に向けて列車が発車する時間まで、みんなで歌を練習できたのは、たったの2回でした。しかし、覚えやすいメロディと、何よりハルエさんの言葉のおか



げで、みんなの心は一つになっていました。そして何事もなかったように再び列車に戻り、角館まで再びお座敷列車を楽しみます。帰りの列車のなかでは、明日香ちゃんが、秋田メンバーが大好きな『うつくしい秋田』を熱唱してくれて、秋田のみなは涙。その後も、みんなで『あんなべいいな』を大合唱したり、なんとも幸福な時間でした。そして阿仁合駅でたけちゃんとはお別れ。さらに、比立内駅ではハルエさんともお別れです。



一同 (拍手と涙)

ハルエ 幸せいただきました。また誘ってください。

一同 (拍手)

ハルエ ほんとにありがとうございました。

ハルエ みなさんどうもお世話様でした。87歳になったともこんなに楽しい思い出したことないです。命の洗濯させてもらった。

一同 わーっ！ (拍手)



フィナーレ

16時22分。角館駅到着。大急ぎで観光案内所へ移動し、全員で再度歌の練習をします。しかしあまり待たせてもいけないと、みどりんと酒井社長をお呼びします。

藤本 今日はありがとうございます。ツアーから考えると6日間も内陸線を堪能させていただきました。今回、いつも『のんびり』に携わってくださっているみなさんと、お座敷列車で打ち上げをさせていただいたんですが、実は打ち上げだけではなく、『のんびり』特集取材の最終日ということで、少しみなさんにも協力いただきました。ここにキーボードがあって、さらに青谷明日香がいるということで、もうおわかりかと思うんですが、僕たち、内陸線の曲を作ってみましたので、ここで披露させていただきます。今僕たちが出会ったみどりんはじめ、内陸線の観光アテンダントのみなさんへの感謝と応援というんな気持ちを含めました。実はさっき鷹巣駅で一瞬降りた間にみんなで練習したんです。

みどりん そうなんです。

藤本 なので、まだちょっと完璧とは言えないですけど、ここで酒井社長も含めてお披露目させていただいて、いい曲だなと思ってくれたら、使ってもらえたらと思っていますので、今から聴いてもらってもいいでしょうか？

酒井、みどりん (拍手)

藤本 では歌わせてもらいます。



壁にスライドが投影されるなか、明日香ちゃんの伴奏のもと、全員で『みどりのなかを』を大合唱——

酒井 ほお〜(拍手)

みどりん (涙を拭いながら) 私めっかに泣かないんですよ。

藤本 「あきた♡美人ライン」内陸線の、まさにあきたびじんな、みどりんとの出会いから作った曲です。実は、今日、ハルエさん乗ってくれたじゃないですか。

みどりん はい。

藤本 鷹巣でハルエさんも一緒に練習してくれてたんですよ。でも、どうしても比立内で降りないといけなかったから、ここで一緒に歌えなかったんですけど、その練習のときにハルエさんが、これ私見てたって言うんです。みどりんが娘さんと一緒に乗ってる姿をずっと見てたって。

みどりん あ！……はい！私お会いしています。休みの日に娘と一緒に乗ったときにお会いして、実は私娘がいるんですよとお伝えして……。

矢吹 私たちも昨日たまたま、



ハルエさんにバッテリー会って。

藤本 すべてが繋がりました。

みどりん 一昨日も偶然急行に時間ずらして乗っていたいただいたおかげで**藤本** そうなんです。明日香ちゃんが新幹線に乗り遅れてしまった、急遽、1本後の急行に乗ったために僕たちはみどりんに出会えて。

酒井 ああ。

藤本 僕たちとしては、この曲を内陸線でいろいろ使っていたら、盛り上げていけたらいいなと思うので。

酒井 ものすごくわかりやすいし、ものすごくいいと思います。



一同 ありがとうございます。
藤本 最後にもう1回歌いますか。

——みどりんと酒井社長にも歌詞を渡し、もう一度歌う——

酒井 歌うとちょっと難しいね(笑)。
藤本 でも、僕たちも鷹巣で2、3回練習しただけでこれだけ歌えるようになったんで、きっと大丈夫です。

みどりん 歌えるように頑張ります。
藤本 駅で流れるようになったりすると嬉しいです。

酒井 そうですね、ぜひ。どういふふうにしたらいいか……。

藤本 いろんな調整があると思うんですけど、ぜひよろしくお願いします。

す。僕たち、今回実際に内陸線に触れて、みどりんとの出会いをはじめ、ハルエさんも、他のアテンダントさんも、いろんな出会いのなかで、心から内陸線はいい列車だと思いた。その思いを僕たちなりに広めていきたいという、そんな気持ちの結晶なので。

酒井 ありがとうございます。

藤本 ぜひ、いろいろ使ってもらえたら嬉しいですよ。そして明日香ちゃんも本当にありがとうございます。

青谷 いえいえ。ありがとうございます。こちらこそ。

藤本 明日香ちゃんのおかげです。

一同 (拍手) ありがとうございます。たー！

僕の頭の中で、ふっと、「のんびりツアー」最終日の光景(本特集冒頭のシーン)がよぎりました。そして僕は心の中でこうつぶやきます。「この3日間であげたものは、僕たちそれぞれの日々に活かしていくと思います。ありがとうございます！」



浅田政志制作の映像もご覧いただけます。ぜひダウンロードしてください。

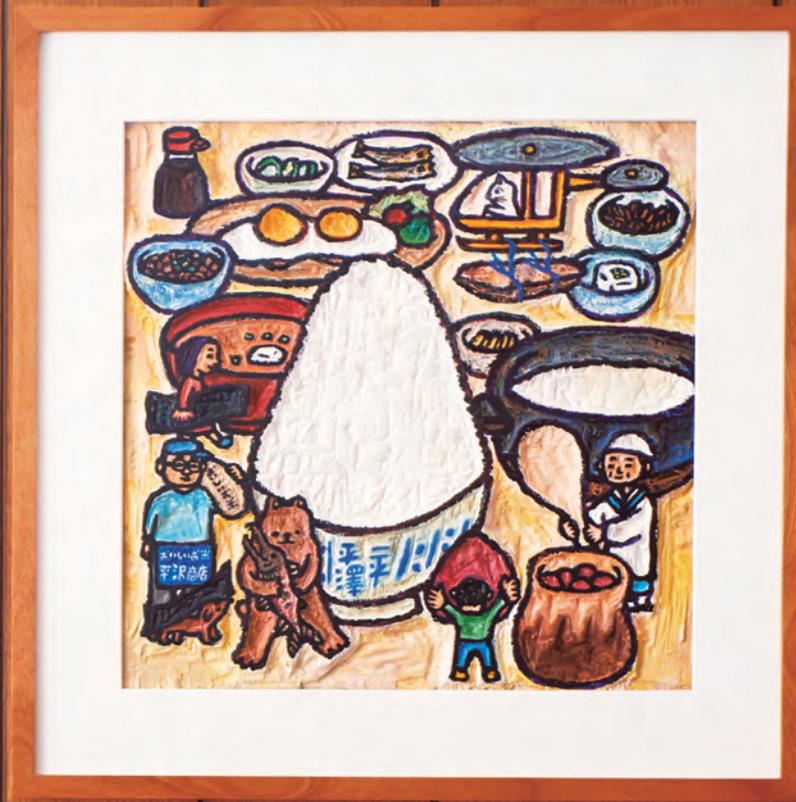
<http://non-biri.net>

※無断での二次使用はご遠慮ください。

『みどりのなかを』をのんびり公式ウェブサイトでお聴きいただけます！

平沢さんという お米屋さん

取材・文＝矢吹史子
写 真＝高橋 希
Text_Fumiko Yabuki
Photo_Nozomi Takahashi



どこへ行っても田んぼがいっぱいの秋田県。

おいしいお米があることが「当たり前」に思えてしまうこの地で、とても丁寧な販売をしている一軒のお米屋さんがあります。

「平沢商店」。秋田市大町にあるその店の一角には、数種類のあきたこまちの玄米がずらり。同じ秋田県産でも産地、作り方で味の異なるものを選ぶことができ、加えてそれを16段階もあるなから好みに合わせて精米してくれます。

これらのお米をひとつ一つ紹介してくれるのがこの店の4代目、平沢敦さん。今回、この平沢さんにお話を伺い、さらには生産農家の方々を訪ねることで、食べる側が感じていた「当たり前」は彼らのような売り手と作り手が、二人三脚で重ねてきた長年の努力のもとにあることを見えてきました。

平沢商店 平沢敦さん



人と人とも つなぐ米

平沢商店 平沢 敦さん

米っていうのは、毎年同じものではない。気候が微妙に違うから、同じ産地・品種でも、毎年実際の田んぼを見て、土壌も調べてもらって、検査にかけて、精米の仕方もそれぞれ変えます。さらに、仕入れている米は全て食べて、その上で納得したものしか出さない。だから本当に気が抜けません。でも、お米の味は、最終的には作る方の栽培技術が決め手だと思っているので、私は土地や品種よりも「人」にスポットを当てています。日曜日になると家族で産地をまわりますが、そこでは米も見なきゃならないけど、人との繋がりがあるっての商品なので、その人がどんな工夫をしていて、どんなこだわりを持って、手間ひまをかけて作

り上げたのかを一番に見ます。みなさん、毎年変わる天候に合わせていろんな努力をされています。

例えば、これは阿仁^{あに}で作られた棚田のあきたこまち。中山間部の標高が高くて作られていて、斜面で農機具も入りにくくて大変な作業ですが、ここには森吉山のミネラル豊富な水が流れていて、そこを長年、地域の人が

ちがパイプラインを作って取り入れるところからやっていて、その冷たい水が、夏場の稲を昼は保温して、夜はしっかり温度を下げる、その寒暖差がお米をおいしくしています。これだけの努力というのは品質にも出てきます。

そういったことを、しっかりとお客様さんに伝えて、その米に合った精米と、炊き方のアドバイスをする。そして、それを食べた人がどういう評価をしたのか、喜んでいただけたのか、ということ、農家さんに伝えます。それが農家さんの励みになる……。

私は、そんな一生懸命作る生産農家

の方と、米にこだわっておいしいものを食べたいというお客さんとの、橋渡しの役割をしたいと思っています。

「農家から直接買ったからおいしい」と思っている人もいます。それなら、私がこれだけ努力する必要はありません(笑)。うちでは、仕入れる生産者が5人とすれば、5人それぞれの米を精米して、そのみなさんに、よその米も食べてもらいます。農家の人は自分のしか食べないで「俺の米だからうまいんだ」って言っている人も多いんです



よ。だから「隣と比べてもつとしろ」ということではなくて「よそのもそれなりにおいしくて、だから自分もうちよつとがんばらなきゃ」ということをみなさんに感じてほしいんです。

塩害に負け米

象潟^{きさかた}でコシヒカリを作っている田んぼが、平成15年に、風台風による塩害に遭いました。普通の台風だったら海水がかかっても、雨も一緒に降るので流されるんですが、そのときは風ばかりで、海水だけをかぶって一晩で米が枯れてしまったんです。しかも、稲が出穂^{しゅうと}した一番大事な時期で、ここに来られると困るっていう、その時にきて。ちょうどその前の日に、成育具合の話をしていて「今年は期待できる」と言った矢先だったのに……。

結果、いつもは1等米だったコシヒカリが、3等米にも入らない「規格外」という米になってしまった。量的にもいつもの5分の1くらいで。「こんなふうになっちゃった」って持ってきて、やっぱり明らかに良くないんだけど、よく見ると、その中にしっかりした粒

があつて、そこに稲の生命力を感じたんです。それで、精米機と色彩選別機をゆくりこまめに回せば、食べられるものも取れるかな……くらいのレベルだったんですが、やってみたらいつも3倍も5倍も時間がかかったし、当然いつもより品質も良くないんですが、食べる力があつて。最終的に「これはいけるんじゃないか」ということで、「塩害を受けてもこうして実ったんだ」という説明をつけて販売したんです。

そのときに、うちの家内がバケージにこういうラベルはどう？ って『塩害に負け米』っていうのを作ってきて(笑)。それが結構うけて、テレビで全国に放送されたら、売れるかどうかもわからなかった米が「このお米を分けていただけますか？」っていう言い方をされるまでになったんです(笑)。

あれだけがっかりしていた人たちが「売ってくれたんだ」って泣きながら喜んでくれたのが何よりでした。



平沢さんと なるほど舎

「塩害に負け米」で平沢さんに助けられたという象潟の生産者団体「有限会社なるほど舎」の竹内久一さん、須田貴志さん。お二人のお話から、これまでの平沢さんと生産者の関わり合いがいかに充実しているかを感じ取ることができました。

なるほど舎 須田貴志さん

なるほど舎は農家の団体で、平沢さんとの付き合いは15年ほどになります。今は自分たちでも、できた米をここに集荷して、精米したり届けたり、ということをしていて、私は栽培よりも精米をやるためにここに加わったんですが、機械のことや袋のこと、米の保管のことっていう基本は全て平沢さんから教わったんです。精米して販売するという意味では、いわば同業者じゃないですか、それでも一生懸命教えてくれて。



よその農家が産直を始めて、精米機を入れるといったとき、安くて良い性能のものがあつたり、倉庫はこうしたほうが良いとか、そういう情報は、

自分だと「他にはちょっと教えたくないな」って思うんです。もったいなくても、平沢さんは私たちに惜しげもなく全部教えてくれて、そのおかげで私たちが育ってきて、米の状態も守られてきたので、同じように、聞かれたときに伝えるようにしています。それが自分の役目だと思って。実際はちょっと悩みますけどね（笑）。

だから。生産者はそこで止まってしまうんですね。「これからどうしよう……」って。でも平沢さんは「ここにある米をどうしよう？」ってスタートしてくれて。「これで売りますよ！」と言われたときは「何の話だ？」ってかんじましたね。保険も下りるくらい被害でしたから、うちらはただただ呆然としていて。年が明けてから「おお、すごいことしていただいたな」って実感しました。

いろいろな人に情報を求めて、吸収して。平沢さんは米屋なんですけど、試験場の職員の方みたいに動いている（笑）。あるのは「広げよう」っていうことだけで、相手に対して情報を出し惜しみするようなマインスマネジメントが全くなさくないんですよ。「塩害に負け米」。あの時は本当に助けてもらいました。1年を約束しているところに届ける米がダメになってしまったん

他の米屋さんとは飛び抜けて違いますね。平沢さんは、米5キロを売るのにも、そこにいろんな情報をつけて売ってくれるんですよ。お客さんにだけじゃなくて、うちらにも。米を持っていくだけで、その米の田植えのときや、種のことまでも話を聞いてくれる。それをお客さんにつかり伝える。それ



から、買ってくれたお客さんの「おいしくなかったよ、固かったよ」とか、そういう声がみんな返ってきて。「じゃあなんでだろう、肥料は何を使ったんだろう」っていうことを一緒に追求して、情報交換できる。それで1年が続いていく……。その積み重ねで15年くらいになるんで。

輪のように繋がってるんですよ、お客さんからうちらまで。今でいう、ネットのレビューみたいなのが、アナログで届いてくるような。ふつうは、農家だったら米を作ることしか知らないんですけど、「米に関わること全部が大事なんだよ、それで繋がるんだよ」っていうことを、平沢さんから1年1年教わってるかんじがします。

平沢さんと出会っていなかったら、ただ、収量だけを求めて、多く出荷しようってしてきてたと思うんです。でも、食べてもらって、この米はこうだよって言われてるうちに、全体が「おいしい米を作ろう」っていう路線になってるんですよ。厳しい中でも生き延びていられるのは、そのへんで。大きな御先に大量に生産して、一俵でも多く届けて、ということだと、こういう考えにはならなかったでしょうね。

うちらは米屋さんにはなれないなって思います。作ることに精米することまではできるんですけど。平沢さんは、仕入れた米を販売してお客さんまで届けることのプロなので。ここまでのお米屋さんはいないですね。

これから、雪が溶けて春になって、今年も米を作ろうかっていうときになると、平沢さんたちが頭に浮かぶんですよ。あの人たちがいよいよを届けたいなって。それが常に頭の中に浮かんでくるのが、ありがたいなって思います。



詩 修

もりゆきの じょう

詩人が描く池田修三の言葉④ 森雪之丞

池田修三の版画に寄せた、詩人たちの書き下ろし作品



「リス」1980年

ごめんね
森には住めないの

わたしが泣いていたからね
木の実を届けてくれたのね
枯葉のベッドは
ぬくぬくだよって
切り株でジャンプをすると
笑いが止まらないよって
あなたは誘ってくれるけど

ごめんね森には住めないの
愉快なだけでは暮らせない
さつき唇が濡れたときに
涙は蜜だと気づいたの
哀しい自分も愛してみせるわ
わたし今日から人間だから

森雪之丞

1954年生まれ。作詞家、詩人。76年のデビュー以来、数々のヒット・チューンを生み出す。近年は演劇&ミュージカルの世界にも活躍の場を広げ、2014年は「アダムス・ファミリー」「蒼の乱」は新作の上演が続く。現在、月刊『本の窓』（小学館）にて江國香織氏と詩の連載中。詩集に『絶望を愛した38の症例』『近未来詩集』『天才的な恋』など。

池田修三

1922年秋田県にかほ市象潟町生まれ。版画家。秋田県内の高等学校美術科教諭を退職後、1955年に上京し版画に専念する。主テーマは子どもたちの情景で、晩年は風景画も手がける。作品は企業カレンダーや銀行の通帳、「広報さかた」の表紙などにも使われる。2004年82歳で死去。

後日平沢さんに、なるほど舎を訪ねた報告をしたところ、こんなメールをいただきました。

「本当のところは、私が貴志さん世代に教える前に、竹内さんや貴志さんのお父さんに教えられたことが大きいのです。」

15年前の7月、穂が出る前の青々とした稲を持って、竹内さんがみえました。そして、カッターナイフで茎を丁寧に切り裂くと、中から出てきたのが幼穂、稲の赤ちゃんです。成長具合、肥料のタイミングなども事細かく教わりました。

そのころは、玄米をいかに精米しておいしく炊くかしか考えていなかった私に、作り手はこんなことまで気配りしているのだと見せたのだと思います。大切な我が子のように育てられた稲だからこそ、塩害の米でも売り切られたかった。感謝しているのは私の方なのです。」

こんな、尊い思いの重なりから生まれるお米。それを当たり前前に食べる事ができる私たちは、それがいかに豊かなことであるかをしっかりと噛み締めていかなければと心から思うのでした。



平沢さんの「おいしいお米の炊き方教室」をのんびり公式サイトにて公開中!

<http://non-biri.net/>



航空

東京(羽田)⇄秋田 ANA/JAL 65分(ANA)、70分(JAL)

大阪(伊丹)⇄秋田 ANA/JAL 80分(JAL)、90分(ANA)

札幌(新千歳)⇄秋田 ANA/JAL 55分(JAL)、65分(ANA)

名古屋(中部国際空港)⇄秋田 ANA 85分

【リムジンバス】秋田空港～秋田駅西口(約35分)

東京(羽田)⇄大館能代 ANA 70分

【リムジンバス】大館能代空港～大館市内(約55分)
大館能代空港～北秋田市(鷹巣)(約15分)

<ANA>0570-029-222 <JAL>0570-025-071



新日本海フェリー

北行 敦賀(10:00)⇄新潟(22:30)⇄秋田(翌5:50)⇄
苫小牧東(17:20)

南行 苫小牧東(19:30)⇄秋田(翌7:45)⇄
新潟(15:30)⇄敦賀(翌5:30)

●秋田港から秋田市街へは車で約30分。
(秋田中央交通バスのご利用も可能)

<秋田フェリーターミナル>018-880-2600
運航スケジュールは必ずお問合せください。

藤本流 のんびり飛行機の旅

車で丸一日かけて秋田へ行くことも多い僕にとって、伊丹空港から秋田空港までたったの80分。って、まるでワープ。しかも早割の安い航空券使ったら、大阪-東京の新幹線代と変わらない安さ! 関西から意外に行きやすいのです。



高速バス

東京⇄秋田 8時間30分(フローラ号)

仙台⇄秋田 3時間35分(仙秋号)

横浜⇄秋田 9時間40分(ドリーム秋田・横浜号)

<秋田中央交通(フローラ号・仙秋号)>018-823-4890
<JRバス東北秋田支店(ドリーム秋田・横浜号)>018-862-9461

●秋田市以外の市町村を往復する便も複数あります。



自動車

仙台⇄秋田 約3時間30分

東京⇄秋田 約7時間30分

<日本道路交通情報センター(秋田センター)>
050-3369-6605

他県から秋田へのアクセス

秋田新幹線 スーパーこまち



東京⇄秋田
スーパーこまち:約3時間45分

仙台⇄秋田
2時間30分
<JR東日本テレフォンセンター>
050-2016-1600

福田流 のんびり新幹線の旅

新幹線「こまち」だと東京から約4時間ほどで秋田まで。お弁当食べて少し寝て、盛岡で青森行との切り離し作業で目が覚めて、本でも読んでまたウトウトしていると今度は大曲でのスイッチバックで目が覚めて、そこからは約30分ほどで秋田到着。簡単には寝させない新幹線、それが「こまち」。2013年3月からは新型車両の「スーパーこまち」も走り、ますます便利に。額の前で手で三角を作り、コマチ! というのを流行らせたい。



non-biri akita access map

[大館市]

アメッコ市

毎年2月第2土・日曜日

(p57/最寄り駅:JR大館駅)
会場:大館市おおまちハチ公通り

秋田内陸線

仙北市(角館)～北秋田市(鷹巣)

P4～秋田内陸線

角館駅
(普通列車で約2時間22分～2時間44分)

鷹巣駅

上り(角館→鷹巣6本)

下り(鷹巣→角館5本)

秋田内陸縦貫鉄道株式会社

北秋田市阿仁銀山下新町41-1

TEL 0186-82-3231

[北秋田市鷹巣]

もちっこ市

毎年2月第2土・日曜日

(p57/最寄り駅:JR鷹ノ巣駅)
会場:道の駅たかのす
「大太鼓の館」駐車場

[男鹿市]

なまはげ柴灯まつり

毎年2月第2金・土・日曜日

(p57/最寄り駅:JR男鹿駅)
会場:男鹿真山神社

[湯沢市]

犬っこまつり

毎年2月第2土・日曜日

(p57/最寄り駅:JR湯沢駅)
会場:湯沢駅前・市街地



池田修三展

『いろどり』



「花のプロフィール (ワタナベ版)」1990年

小さな町に全国から2500人を動員した
奇跡の展覧会が今年も!

2014年
4月29日[火・祝] ▶ 5月6日[火・祝] 10時~17時 入場無料

にかほ市象潟公会堂 大ホール

秋田県にかほ市象潟町字三丁目塩越163

主催：にかほ市、にかほ市教育委員会

『修三さんの、はじまりまつり』

2014年 4月30日

修三さんの誕生日の4月30日

『修三さんの、はじまりまつり』と題して、トーク&LIVEイベントを開催。

イベント終了後には、お客さんと一緒に、
小さな花みこしを担いでお墓参りへゆきます。

14:00 ~ 藤本智士 (のんびり編集長、Re:S) と、
福田利之 (本誌『下戸式秋たんぼう』連載中、イラストレーター) による、トークショー

15:00 ~ 青谷明日香 LIVE
(会場より徒歩約15分)

の版刷り師、小林義昭さんによる、

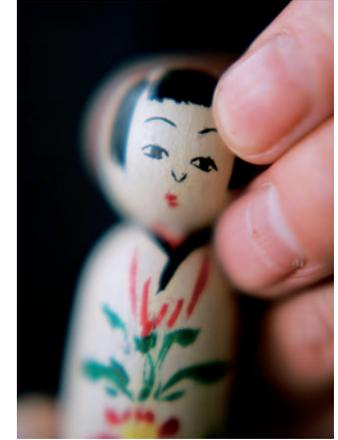
遠方のみなさんへお願い

「本当は会場へ行きたい!」という気持ちを花にのせて送ってもらえませんか?

詳細は、池田修三オフィシャルサイトへ。 www.shuzoikeda.jp/

イベントは終了いたしました。
たくさんのご来場ありがとうございました。

めらめらと燃えさかる焚き火の
まわりを、何十ものなまはげが荒々しく
闊歩していた。どのなまはげも濃密な怒
りの表情をたたえている。こどもを見る
なり、ぶわあっと烈しく近づいたかと思
うと、そおんと優しい手つきで頭を撫で
ていた。その落差にばくは否応なくとき
めく。
かみさまのなまはげと向きあいたかった。
まなぎしを向けられて撮影するとき、ま
るで時間が静止したかのようだった。そ
のあと、なまはげは身にまとっていたケ
デからワラをむしりとりて手渡してきた。
その夜、ぼくはワラを頭に巻いて無病息
災を願いながら眠った。



裏表紙

齋藤陽道
×
なまはげ

写真：齋藤陽道 (さいとうはるみち)

1983年9月3日東京都生まれ。都立石神井ろう学校卒業。2007年、陽ノ道と
して障害者プロレス団体「ドッグレックス」所属。2010年、写真新世紀優秀賞
受賞。写真集には「感動」(2011年、赤々舎)、「宝箱」(2013年、ぴあ)がある。
あらゆる種別や境界を越えた命の息づく世界をテーマに表現している。

『のんびり』をお読みいただき
ありがとうございます。協力ください。
アンケートにご協力ください。

プレゼント No.1

「ないりっくん」グッズ

秋田内陸線キャラクター
「ないりっくん」の
オリジナルグッズ!
内容は届いてからのお楽しみ!

プレゼント No.2

「平沢商店」
あきたこまち
食べ比べセット
p50に登場した。

プレゼントの応募は終了いたしました

のんびり公式サイトから
ハガキでご応募の場合

①郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、メールアドレス ②本誌の入手先
③今後とりあげてほしい話題 ④今号で面白かった特集 (複数回答可) ⑤ご感想
⑥ご希望のプレゼントをハガキに明記の上、ご応募ください。

宛先は 〒011-0945 秋田市土崎港西 3-9-15-303 NPO法人 あきた地域資源ネットワーク
あきたびじょん企画室 のんびり編集部 行

「のんびり」は人を基軸に「あきたのほんとう」をまっ
すぐ伝えるマガジンです。本号へのご感想、今後取り
上げてほしいテーマなどのご要望、ご提案を、ハガキ
か「のんびり公式ウェブサイト」のアンケートページ
からお寄せください
プレゼントをお贈り
応募メッチは2014
発送をもってかえさ
※個人情報保護法に基づき、本誌以外への利用はいたし
ません。当選の発表は
ます。

プロデューサー
鏡 啓記 (NPO法人 あきた地域資源ネットワーク)

発行
秋田県
(観光文化スポーツ部観光戦略課イメージアップ推進室
Tel 018-860-1073)

編集
あきたびじょん企画室 のんびり編集部
〒011-0945 秋田市土崎港西3-9-15-303
NPO法人 あきた地域資源ネットワーク内
Tel 018-816-0610
Facsimile 018-816-0611
Mail info@non-biri.net

印刷・製本
秋田活版印刷株式会社

似顔絵
田淵志織

動画
近藤康洋 (mel digital co.,Ltd)
佐藤 努 (mel digital co.,Ltd)

STAFF

編集長
藤本智士 (Re:S)

編集
矢吹史子 (noon design box)
田宮 慎 (casane tsumugu)
笹尾千草 (cocolaboratory)
山口はるか (Re:S)

アートディレクション
堀口 努 (underson)

デザイン
澁谷和之 (澁谷デザイン事務所)

写真
浅田政志
鍵岡龍門
船橋陽馬

題字・イラストレーション
スタタカミツ

のんびり

2014.Spring 08

2014年3月17日発行

「のんびり公式サイト」公開中!

<http://non-biri.net>

*乱丁・落丁誌はお取り替えます。
*本誌内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。
*本誌データは2014年3月10日現在の情報です。
あらかじめご了承ください。
*本誌は「あきたびじょん」コミュニケーション媒体企画制作業務
委託業務で制作いたしました。
©nonbiri all rights reserved.

discover Akita

Harumichi Saito × Namahage

齋藤陽道 × なまはげ

